



2018.7.12



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

==== 目次 =====

1 ■ともに生きる：川口市から■

若者の力を活かした若い外国人と高齢の日本人の接点づくり

芝園団地自治会事務局長 岡崎広樹

2 ■高校進学進路ガイダンス情報（7、8 月）■

3 ■お知らせ（1）■

「AJALT 公開講座」のお知らせ

4 ■ お知らせ（2）■

「2018 年度 日本語教師のための夏の教え方講習会」のお知らせ

=====

1 ■ともに生きる：川口市から■

映画「キューポラのある街」の舞台として有名な埼玉県川口市にある川口芝園団地は、外国人住民が半数以上を占めています。海外生活での体験から、日本人と外国人の望ましい関係を模索していた岡崎広樹さんは、芝園団地自治会の事務局長として、それを具体的に実践しています。自身 30 代の若さであり、若者を巻き込むダイナミックで緻密な取り組みは大変生き生きとしたものです。今回はその模様を紹介していただきます。

.....

若者の力を活かした若い外国人と高齢の日本人の接点づくり

芝園団地自治会事務局長 岡崎広樹

◆「将来の日本の縮図」川口芝園団地◆

皆さまは、埼玉県川口市にある川口芝園団地をご存知でしょうか？1978年に建設された総戸数2,454戸のマンモス団地で、芝園町の人口は約4,800人。その半分超の2,500人以上が外国人住民で、その9割以上が中国人住民です。また、60代以上の日本人住民と、20代後半～30代の外国人住民が暮らす「将来の日本の縮図」と言える場所です。

◆三つの「ない」から「ある」へ◆

当団地では、外国人住民の増加に伴い、騒音やゴミの分別、階段の踊り場にされる大便・小便などの問題が起きました。日本人住民は、生活環境の悪化に不満・怒りを募らせる一方で、外国人住民は、「中国人帰レ」などの心ない落書きに不安を感じていました。

この状況を改善するために地元の現状を整理したところ、(1)両住民の共通項が少ない、(2)マンパワーもアイデアもない、(3)若い日本人が地元にはいない、といった三つのないが明確になりました。そこで、地元には足りないものを内外に積極的に求めていく「開かれた自治会構想」を掲げて、三つのあるづくりを2014年から開始。

◆若者の力を活かした住民同士の接点づくり◆

若い日本人を地元へ呼び込むために、近隣や都内の大学の社会連携課などに問い合わせる、研究室を直に訪問するなど、ゼロから始めて学生との接点を作っていました。紆余曲折を経て、地元外の学生団体「芝園かけはしプロジェクト」が新しく立ち上がり、両住民の人間関係をつなぐ懸け橋として、交流の場づくりを担ってくれるようになりました。現在12大学から33名が参加しています。

2016年からは、両住民が、顔の見える関係を築く場「芝園多文化交流クラブ」を開始。例えば、子育て世代であれば、学校などを通じて、お互いの接点が生まれます。しかし、高齢の日本人と若い外国人は、地域における接点がありません。そこで、地域イベントと一緒に企画しながら密に交流する同クラブを開始して、この2年間で延べ450人が参加してくれました。

今では、外国人住民の役員が誕生し、2014年にわずか数世帯だった外国人会員は、この4年で約50世帯が新規加入するなど、3歩進んで2.5歩下がりが

らも外国人住民を交えた地元づくりを着実に推進。2018年には、国際交流基金「地球市民賞」、埼玉県「埼玉グローバル賞」をダブル受賞しました。

◆日本語教室と自治会の連携◆

地縁は、隣近所に住んでいるだけで自然に生まれません。顔見知りになって初めて地縁が生まれるのです。つまり、共通項の少ない高齢の日本人と若い外国人の暮らす地域では、意識的にたくさんの接点を生み出すことが、外国人住民を交えた地元づくりに必要不可欠です。

その役割を担える数少ない地元の場が、日本語教室と言えます。従って、日本各地で外国人住民の増加を見込む中、日本語教室と自治会の連携による両住民の接点づくりが、今後、必要になるのではないのでしょうか。

◇編集者注：2018年1月現在 芝園町 世帯数 2,809 世帯 人口総数 4,835 人
(川口市ホームページより)

★編集部より

次のサイトもぜひご参照ください。

活動を伝える記事

<https://globe.asahi.com/article/11578981>

芝園かけはしプロジェクト

<http://shibazonokakehashi.org/>
